

鳥取 会報

第16号

2007年1月



鳥取砂丘「砂の美術館」 天使の像・サンピエトロ大聖堂

目次	年頭のごあいさつ……………2～3	シルバー人材センターの紹介……………15～16
	シルバー人材センター理事長の抱負……………4～9	会員の広場……………17～18
	平成18年度事業実施状況……………10～11	講習会に参加して……………19～21
	平成18年度シニアワークプログラム事業実施状況……………12	鳥取県の最低賃金……………22
	健康シリーズ®……………13～14	公益法人制度改革の概要……………23

社団法人 鳥取県シルバー人材センター連合会

年頭のごあいさつ



(社)鳥取県シルバー人材センター連合会

会長 宇野 治 己

明けましておめでとうございます。

謹んで新年のごあいさつを申し上げます。

会員の皆様や関係者の皆様には、日頃からシルバー事業に対しまして、多大なご理解とご協力を賜り心からお礼申し上げます。

シルバー人材センター事業は、昭和六十一年の事業法制化から早二十年を迎えており、県全体の事業規模は年間約十三億円、また会員数におきましては、四、三〇〇人までに拡大してまいりました。近年、シルバー人材センターを取り巻く環境は、まことに厳しい状況ではありますが、一層の事業の効率化をはかり適正就業の推進につとめているところであります。

申すまでもなく、今後人口減少社会において、いわゆる二〇〇七年問題として団塊世代の退職ラッシュが始まり、二〇一二年には六五歳を迎える超高齢社会となります。

シルバー人材センターは、高齢者の多様な就業ニーズに適切に対応するため、雇用・就業機会と各種社会参加活動など幅広く提供しています。なかでも、市民の要望に応え地域の担い手としての役割を果たすため、「社会参加活動支援コーナー事業」を重点的に実施してまいりましたが、このたび、更にこの事業の拡充をはかるため一般労働者派遣事業の導入について検討を続けております。

昨年三月には、国において「再チャレンジ推進会議」が設置され、再チャレンジを可能とする柔軟で多様な社会の仕組みづくりに向けた取組がスタートいたしました。

働き方や学び方そして暮らし方に対応した仕組の構築について議論がなされるなか、個別の支援策として女性・高齢者及び団塊世代の支援が大きな柱として位置づけられています。なかでも高齢者・団塊世代への具体策と

して「経験を活かした子供への教育支援」や「ベテラン人材の企業などでの活用策」また「七〇歳まで働ける企業の実現」といった事柄などが盛り込まれています。

一般の高齢社会白書に東京都荒川区シルバー人材センターでの「高齢者による通学路など安全確保の取組」また、埼玉県草加市シルバー人材センターでの「親子ひろば のびのび」の活動状況が紹介されております。全国の各地において、地方紙・テレビそして広報誌を通して、高齢者の経験や智恵を生かし、生活に密着した活動が、数多く報道されています。これは、シルバー事業が広く地域に貢献している活動として認知されてきた証であり、あらためてその責任の重大さを感じるところであります。

シルバー事業の基本は、いうまでもなく安全就業であります。県下の各シルバー人材センターが「自主、自立・共働、共助」の基本理念を踏まえ、「安全はすべてに優先する」運動を実践し、それぞれの地域の多様なニーズに適切に応え、高齢者の就業を始め、社会参加活動の充実につとめてまいりたいと存じます。皆様の引き続きのご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます、あわせて皆様のおすすめのご健勝を祈念いたし、新年のごあいさつとします。

新年の御挨拶



鳥取県商工労働部

労働雇用課長

山本

誠

新年明けましておめでとございます。

日頃、皆様方には、本県の高齢者施策に御理解と御協力をいただき、厚くお礼申し上げます。

昨年、経済情勢は全国的には回復の兆しが見えてきましたが、地域間の格差は大きく、残念ながら本県の雇用情勢は一進一退を繰り返し、まだまだ厳しいものがあります。特に、高齢者の雇用環境は厳しく、さらに今年から団塊の世代の退職も始まりま

す。一方、次世代を担う若年者にも多くの問題があります。近年、若者の早期離職や「も

のづくり離れ」の傾向が顕著になってきています。また、昨年は子どもの自殺やいじめ問題が大きくクローズアップされました。若年労働力人口の減少も大きな課題です。

このような時こそ、高齢者の方々が生涯にわたって生きがいを持って活躍し続けることのできる環境のもと、永年培ってこられた知識や技術、経験を生かし、地域社会の支え手として活躍していただくことが期待されています。

シルバー人材センターの果たす役割は今後ますます重要です。高齢者の方々に地域の日常生活に密着した多様な就業機会を提

供し、その生きがいや社会参加といった多様なニーズに応え、地域社会にも貢献される各種事業に取り組まれることを今後とも期待しております。

県としましても、シルバー人材センター事業を高齢者施策の重要な柱として捉え、支援していきたいと考えております。

終わりに、貴連合会及び各シルバー人材センターの益々の御発展と、会員の皆様方の御健勝と御活躍を祈念いたしまして、新年の御挨拶いたします。



シルバー人材センター 理事長の抱負



(社)鳥取市シルバー
人材センター
理事長 木島敏行

新年あけましておめでとうございます。
皆様におかれましては、新しい年を迎えられ
益々ご健勝のこととお喜び申し上げます。

さて、当シルバー人材センターも市町村合併
から早二年を経過しましたが、センターを取り
巻く経済環境は補助金の削減や公共事業の指名
入札制度、行財政改革などの流れから今まで以
上に厳しい状況下に置かれています。この危機
を役員、会員、事務局職員が英知を出し合いこ
の現状を乗りきらなければならぬと存じます。
そのためには、「センターの基本理念「自主・
自立・共働・共助」を基に事業活動を展開する
必要があります。これらのことをふまえ、「中
期事業基本計画」の最終年度でもあり、事業運
営と組織体制の強化を図り、会員の増強、安全・
適正就業、独自事業や新規事業分野への取り組
み、適正な財政運営の推進を確実に進めると同
時に、市民の信頼と期待に応じられるセンター

の構築に努めてまいりたいと存じます。

今年から逐次団塊の世代が退職を迎え、益々
センターの意義が問われる時代になります。ど
うかこれらのことを充分にご理解いただき、会
員各位の絶大なるご支援とご協力を賜りますよ
うお願いを申し上げます、挨拶と致します。



(社)米子広域シルバー
人材センター
副理事長 河越庄市

新年あけましておめでとうございます。

シルバー連合会の会員の皆様におかれまして
はお健やかに新年をお迎えのことと存じます。

現在、少子高齢社会が進行する中で高齢者が
「福祉の受け手」から「社会の担い手」として
役割を果たすための仕組みが効果的に持続され
当面、間もなく六十歳を迎え始める「団塊の世
代」から後期高齢者までの幅広いニーズや多様
なあり方に対応し就業や社会参加活動ができる
よう機能すること。こうしたことがシルバー人
材センターに求められております。

この春、市と町の合併によるセンターの統合
三年目を迎え、この区域の拡大やシルバー人材
センターを取巻く諸情勢の変化にどう具体的に
応えることができるのか。景気の回復が地方で
はまだ実感されないなか、当センターは会員、
役職員の熱心な取り組みを始め地域の発注者、

行政等関係の皆様のご理解とご支援ご協力をい
ただき、着実な事業運営に努めてまいっております。

しかし、補助事業削減や就業機会及び自前財
源の減少など厳しい状況下では、限られた財源
のなかでの運営基盤の強化拡充は喫緊の課題で
す。引き続き「自主・自立」「共働・共助」の
理念のもと会員の運営参画の促進や、従来から
の就業のほか近年取り組みの進んだ自主的なボラ
ンティア活動、あるいは一般労働者派遣事業、
趣味・文化活動ほかの相談、情報提供等幅広い
社会参加活動の推進のため多様な事業メニュー
の構築を更に積極的に進めて、一層のシルバー
事業の普及と自立化・効率化も取り組んでまい
りたいと思っております。

本年も関係者皆様のご健勝とご活躍を祈念申
し上げます。



(社)倉吉市シルバー
人材センター
理事長 野島 完

皆さまには、平成十九年の新年をお健やかに
お迎えのこととお慶び申し上げます。

さて、本年は団塊の世代の皆さんが六十歳を
迎え、更には、平成二十六年には国民の四人に
一人が六十五歳以上という、本格的な高齢者社
会の到来が見込まれており、「シルバー人材セ

ンター」の果たす役割は、ますます重要となつてまいりました。

そのためには、会員の要望に答えられる仕事の確保と就業意欲の高い会員の加入拡大が必要であり、従前にも増した受託事業及び高齢者活用生活援助サービス事業・子育て支援事業の拡大と、独自事業の積極的な展開を進めていかなければならないと考えています。

また、本年は、当社団法人倉吉市シルバー人材センターが、昭和六十二年十月一日に設立してから二十年の節目の年となり、この記念すべき二十周年を迎えるにあたり、本年九月三十日に倉吉市関金都市交流センターにおいて、「設立二十周年記念式典」「会員作品展」「アトラクション」などの開催と、十二月に「二十周年記念誌」発行について、現在、実行委員会での準備を進めているところです。

今まで幾多の困難を乗り越えてきた道に思いをし、これからまた将来に向かってさらに飛躍を目指すため、心に残る「設立二十周年記念事業」としたいものです。



(社)境港市シルバー人材センター
理事長 足立郁馬

謹んで新春のお慶びを申し上げます。
日頃、県SC連合の皆様方の温かいご支援と

ご指導のお陰で、厳しい運営ながらも何とか着実に事業経営が出来、ありがとうございます。今年も宜敷くお願いいたします。

さて、当センター事業運営の課題としては「就業機会の開拓及び適正就業」「新会員の加入促進」「団塊の世代への対策」「後継者育成」「安全就業対策」等々。山積みです。

設立十五周年の昨秋、再出発の年になるよう各委員会の組織を刷新いたしました。

役員の世代交替、会員委員がセンター運営への参画意識を高め、変革課題を検討中であり、大局的な視野に立って、時代に即応した取り組みに努めたいと思案しております。

取り分け、「安全就業」が第一です。お互いの経験や円熟味、安定といった「老の価値」は豊富でも高齢者です。機敏性は欠けています。幸にも重篤事故は起きていませんが、起きないと言う保証はありません。

色々な標語を噛み締め、些細な事にも配慮し、安全就業は「自分及び家族の為」を自覚して貰うよう、機会ある毎に口喧しく、相互に注意し合うよう呼びかけております。

今年「亥年」——特に「交通安全」では猪突猛進は、私を含めてあつてはなりません。

関係者各位のご健勝と各SCのご発展を祈念申し上げます、新年のご挨拶に代えます。



(社)南部広域シルバー人材センター
理事長 田子 貢

新年明けましておめでとうございます。
シルバー事業関係者の皆様、新しい年を益々お元気で迎えになりお慶び申し上げます。

さて昨今のシルバー事業を取りまく環境は次第に悪化してきております。都会では大企業など活況を呈してきて昨年の暮れにはアルバイトが集まらなく企業の要望に答えられないという派遣業者からの報道でしたが山陰の片田舎ではいまだその心配すら見えませんが、当事業では今までは実績が右肩上がりでも積み上げてきたものがここに来て変化してきたように見えます。一つには国の財政悪化による当事業への補助金の削減、公共の受託事業の指定管理者制度による民間事業者への流失、新入会員の減少傾向等今年はこの事業の一大転換期に差し掛かっているような気がいたします。

このような状況の中でどのような方策で事業目的の拡大に沿うようこの流れを変えて行くのか、景気回復への待ちの姿勢では今後の事業拡大は望めないと思っております。

事業関係者と致しまして、今後高齢者がどんどん増えてきますが、この増える中高年の方をいつまでも働く意欲を持ち続け、健康で病院や介護施設にお世話にならない元気老人でいて

らえるか、国民健康保険税や介護保険料があらぬように地域の皆さんにも良く理解をしていただいでシルバー事業の運営に携わって行かねばと思つています。

最後になりましたが関係者の皆さんのご健勝とご多幸を祈念しご挨拶とします。



(社)智頭町シルバー

人材センター

理事長 石谷文一

県内各地シルバー人材センター会員の皆様あけましておめでとうございます。

新しき年を迎えるにあたり、わたしたちSC会員が地域社会の福祉の担い手として果たす役割と今後の活動のあり方について改めて自覚し、SC事業を推進していかなければならないものと考えています。

旧年来話題となりマスコミでも連日のように報道されていることですが、いざなぎ景気をオーバーしたといわれている日本経済の好景気の中にあつても、我々にはそのような実感は全くありません。中山間地域では今もつて景気は低迷しており、地域格差は益々拡大するばかりで、仕事の量も会員数も横ばいもしくは減少状態で町の補助金も年毎に減額されています。また町の方針転換で存続さえ危ぶまれている活動拠点もあるかに聞き及んでいます。本県に於ける

SCを取り巻く環境は益々厳しくなることが予想されます。

いま国が指導している人材派遣事業などについても、大都会のSCは別として地方の中小SCにとっては法律の効果も期待できず、逆効果さえ懸念されています。

今年こそ、団塊の世代を迎えるこの時期だからこそシルバー会員自らが英知と経験・技能パワー等を結集して独自事業を開発し、地域社会に貢献しつつ存在価値を示すときでもあると考えています。

県シ連の益々の発展を祈念いたします。



(社)岩美町シルバー

人材センター

理事長 谷口幹彦

新年あけましておめでとうございます。

会員の皆様、ご家族の皆様には、お健やかに新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。

さて、本年は、岩美町シルバー設立十周年の記念すべき節目の年を迎えることとなりました。その間、町民の皆様のおかげで支障、関係機関の理解あるご指導、加えて会員の方々のご協力・ご努力により事業が進展し、今日に至りましたことに厚く感謝とお礼を申し上げます。また、今日の礎を築いてこられた諸先輩方の尊いご労苦に対し、深く敬意を表するものであります。

ご承知のように、シルバー事業を取りまく環境は必ずしも良好とはいえず、国や地方自治体の財政事情や行政改革の流れ、景気回復の遅れなどから、今までも増して厳しい状況となっております。

当センターにおきましては、会員数及び事業実績(契約金額)はほぼ横ばいの状況にありますが、全体的な課題として、就業機会の拡大と適正・公平な就業が必要不可欠であります。平成十九年度は、適正就業を目的とする調整委員会を設置し、推進要綱を起案するなどして、発注者の要望に応えていける整備を進めることとしました。

地域社会の皆様これまで以上のサービスの向上が図られるよう、全会員が一致結束して事業を進める所存です。当センターが、益々発展充実していくよう皆様と共に努力することをお誓い申し上げます。年頭のご挨拶といたします。



(社)湯梨浜町シルバー

人材センター

理事長 足立春人

新春を迎えおめでとうございます。

昨年東京に於いて、新任理事長の研修会が開かれ参加させて頂きました。(一)公益法人としての理事長の役割と責任、(二)シルバー人材センター事業の現状と課題、(三)各分科会に別れての意

見交換会等があり、今後のセンター運営について色々参考になる事が多く有意義な会でありました。

所で皆さんも御承知の様に昭和三十八年に老人福祉法が制定され、その第三条第二項には『老人は、その希望と能力に応じ、適当な仕事に従事する機会その他社会的活動に参加する機会を与えられるものとする。』と謳われております。老人だからと云って尊敬や崇めると云うことでなく、又生活の保障等でもなく、老人の希望や能力に応じた仕事の機会を老人のために見つけ、社会参加をさせる事が老人福祉法の主旨ではないかと思えます。老人の今までの長い人生の中で身につけた経験と技能と生活の智慧を地域社会のために提供し、その事において生きがいを見出し地域社会と共生出来ればと思っております。地方財政も厳しい折り当シルバーの公共事業は昨年に比べ四百萬円の減となっております。この様な状況ではセンターの運営も非常に厳しく、智頭町シルバーの様な移送サービスや遊休農地の活用又放置自転車等の払い下げを受け、再利用等々、思考しながら地域社会の発展に寄与出来たらと思っております。



(社)琴浦町シルバー

人材センター

理事長 足立慎夫

あけましておめでとうございます。社団法人琴浦町シルバー人材センターを設立し、国庫補助団体として発足いたしました。三年目を迎えることができました。その間、格別のお力添えをいただきました関係各位に心からお礼申し上げます。

当シルバー人材センターも「自主・自立・共働・共助」を合言葉に、高齢者の豊かな知識と経験と技能を生かして、社会参加の輪を広げ、地域社会に貢献する役割を担っているという自覚を一段と高めるよう努めてまいりる所存でございます。今後も、引き続き技術・技能の向上と安全就業に努め、地域での確固たる信頼を築くべく努力を続けてまいりたいと存じます。

今、「福祉の受け手から社会の担い手へ」と、私たちの占める役割の重要性が指摘されています。一人ひとりが、地域社会を支えているという自負と誇りを持ち、会員が一人丸となって仕事に励んでまいりたいと存じます。

今後も、町内でのイベントを活用して、シルバーの活動内容の紹介と会員募集の呼びかけを継続してまいりたいと思えます。

今回、新たに会報「シルバー琴浦」を創刊する運びとなりました。会員が、こぞって安全に

留意し、健康で生きがいのある生活の実現を目指し、地域社会の福祉の向上と活性化に寄与すべく活動し、更なる発展をめざしてまいりたいと存じますので、何とぞご支援のほど、切にお願い申し上げます。



(社)北栄町シルバー

人材センター

理事長 岸田忠良

謹んで新春のお慶びを申し上げます。皆様にはお健やかに新年をお迎えのことと存じます。

今の世の中、昨年来より少し変だなどと思いませんか、その一つとして、景気回復中だと云われながら私達のまわりをいくから見廻しても、そんな心配が全くなし、地方に住む者にとっては良くなるどころか、逆ではないかと邪推したくなる昨今であります。

シルバー事業も御多分に洩れずに、受注件数、金額共に伸び悩み、良くても前年並みでなかなか増加傾向にないのが現状ではないでしょうか。本年は細くなった果実(受注金額)をいかに肥大させるかが課題で、シルバーの基本理念の一つでもある共助・共授で乗り切らねばと念じて居ります。

干支にちなんで猪突猛進で行きましょう。



(社)大山町シルバー
人材センター

理事長 **林原彦一**

会員の皆様、新年明けましておめでとうございます。

昨年はいざなぎ景気とか、空前の経済成長を遂げた年だったと言われました。今年は、それを更に更新する年になるだろうと予測されています。しかし、我々年金生活者にはその実感は全くありません。むしろ、各種税負担のアップや、生活関連の支出増で家計を圧迫しそうです。大都市や、大企業は潤い、地方や低所得の家庭は格差の嵐にさらされそうです。

我が大山町シルバー人材センターは、三町合併と時を同じくして法人化し三年になります。特別な実績は残せませんでした。当センターの規模から見ても、まずまずの成績かと思えます。特に、公共からの契約高は自負できるかと思えます。

大山町には大山があり、農産物の出荷高は県内トップクラスと聞いています。又、海産物も豊富ですが、なかなかシルバーの仕事には結び付きません。こちらの方の取組みが不十分と言った表現が適切かも知れません。今後の課題としたいと思います。

昨年は、会員と理事による地域懇談会を開き、九日間の日程で意見交換をしました。今一つ盛

り上がりに欠けた面もありましたが、有効な意見も出ました。今後検討して実施に向け取組みたいと思います。今後とも、ご指導の程よろしくお願い致します。



八頭町シルバー
人材センター

理事長 **村田敏雄**

謹んで新年のお慶びを申し上げます。

日頃県連合会の皆様にはお世話になり、有り難うございます。合併により世帯は大きく膨らみ基盤作りが出来て参りました。愈々シルバーとしての実績を揚げたいと昨年は努力し、頑張ってきたところです。会員も百二十五名に増え、発注も段々伸びています。全体の受注実績は昨年に比べ緩やかな伸びの結果となつて居ります。今後、各地区の開拓に全力を投球し、実績拡大に努力したいと念願する次第です。皆様のご多幸と、ご健康をお祈りし、年頭の挨拶とします。



江府町シルバー
人材センター

理事長 **宇田川 潔**

新年あけましておめでとうございます。

会員の皆様には健やかに新しい年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

ご承知のように、江府町シルバー人材センターは法人化していない小さな組織でございます。江府町自体が平成の市町村大合併から外れ、単町で生きる厳しい道を選びました。そのため町の財政改革事情により、当シルバー人材センターの事務所を二度に亘り移転するなど昨年は大変な年でしたが、なんとか活動の拠点を確保することができました。

毎年のことながら、年頭にあたり今年こそはと決意を新たに組み組みますが、なかなか思うように形として実績を残せません。

高齢者会員の就業意欲は高いものの雇用の機会が少ない現実には直面しております。

昨年発足した安倍内閣が掲げる「豊かで、美しい国」づくりの言葉は、空しい響きに聞こえない実感として伝わって来ません。

我々、高齢者にとっては健康で働けることが人生最大の喜びでございます。二〇〇六年「今年の漢字」に選ばれた「命」の尊さを大切に「健康」「安全」を支柱として会員相互の連帯を深めながら組織として生き残るためのボランティア

ア活動も視野に入れた地域社会に貢献できる人材センターを目指して頑張りたいと念願しています。
 会員皆様のご健康とご多幸を心よりお祈り申し上げます。



日南町シルバー
 人材センター
 理事長 大下 勇

皆さん明けましておめでとうございます。今年もよりよい年でありませうように。

「一年の計は元旦にあり」と言う言葉があります。昔からいい伝えられている言葉で毎年元旦になると皆が心あらたな決意をする時によく使われます。本来この言葉は「月令広義」という行事や儀式の解説書の中に書かれた「四計（四つのはかりごと）」から引用されたものだと思います。

- 一日の計は晨にあり
- 一年の計は春にあり
- 一生の計は勤にあり
- 一家の計は身にあり

一年の計は春にありを元旦にありと転じ何事も初めに立てた計画が大切であると戒めた言葉だそうです。人間は何かをする時に計画を立てるものです。自分はどうしたいのか、それはどうしたらよいか考え、よいと思う方向に向かっ

て体を動かし努力するところに目標達成がなされると思いい、そこに満足感や生き甲斐も生れてくると思っています。悔いのない人生を送るためにも今年こそはと心を燃えさせて、一年の初に計画を立て頑張る自分を創り出す事と思いいます。老いたると雖どもいつまでも情熱を失う事なく常に明るい希望を持ち生命の歓喜を神に感謝し元気で働きたいと自分自身にいいきかせ頑張りたいと思いいます。



三朝町シルバー
 人材センター
 理事長 西村 武津美

新年明けましておめでとうございます。

町村合併も終わり、皆様の町はそれなりの大きさに成られました。三朝町は単独の町です。それだけに会員の数も少数です。

町の面積も二三四・四六平方kmもあり山の町です。高令化が進み会員も二十五名が四年間で五十名になりそれなりの作業も出来る様になりました。

会員が一堂に会し、ボランティアで公園等の作業をおこない、それなりの成果がありました。会員が一堂に集まる時には色々話はずみ盛会です。

今後とも会員の増加には多少問題がありますが、地域の為になる、又人材センターの出来る事を

つづけて行き、会員と地域のために、人材センターの役割を果していききたいと思いいています。皆様の健康を御祈りいたします。



あけましておめでとうございます。
 県シルバー連合会のスタッフ一同です。
 今年もよろしくお祈り申し上げます。



平成十八年度 事業実施状況

理事長・事務局長合同会議開催

平成十八年十月二十六日(木)倉吉市において、鳥取県シルバー連合 理事長・事務局長合同会議を開催しました。議題は次のとおりで、シルバー事業の諸課題について意見交換が行われました。



- 一 平成十八年度第二回都道府県連合事務局長会議の報告
- 二 シルバー労働者派遣事業就業ニーズの調査結果(案)について
- 三 指定管理者制度の対応状況調査について
- 四 国・地方自治体へのシルバー事業の支援

- 五 シルバー団体傷害保険・総合賠償責任保険の加入集約について
- 六 その他

福祉・家事援助サービス事業 推進担当者研修会開催

平成十八年十月二十四日(火)倉吉市において、各センターの担当役員と福祉・家事援助サービス事業に携わっている会員さんを対象として、研修会を開催しました。

講師に(社)広島県シルバー人材センター連合会指導員 栗栖 須美子氏を招へいし、「これからのシルバー人材センターが取り組む福祉・家事援助サービスについて」と題して、福祉・家事援助・育児サービスから組織、会員確保、就業開拓、独自事業、接遇、新規事業の導入等々にいたる幅広い内容について、豊富な知識と経験に基づいた、こまやかでパワー溢れる講演をいただきました。

続いて、倉吉市シルバー人材センター業務主任 福田 敏子氏から「福祉・家事援助サービス事業の取組について」と題して、高齢者を支えるための介護・介助などの福祉サービス、個人家庭の洗濯・買物・炊事などの家事サービス、保育所等への送迎・サークル活動やイベント会場での託児等の育児サービスについて、取組事例を発表後、熊本市シルバー人材センター制作



のビデオ「子育て支援の展開」を視聴し、意見交換に移りました。

会員さん等から介護の苦労話等も出され、みんなが悩んだり、感動したり、笑ったりしたなかで、この事業の重要性を深く認識するとともに、講師のお人柄もあって、参加された皆様にとっても元氣・やる気が沸いてくる研修会になりました。

第二・三回労働者派遣事業検討会議開催

平成十八年七月の第一回会議に続き、第二回はアンケート調査結果を、第三回は先行実施の香川県シルバー連合の事例発表を中心に次のとおり開催しました。

当初の予定では、第三回検討会議でシルバー労働者派遣事業実施についての方向性のまとめ

を行う予定でしたが、検討事項も多く、今回の会議において、とりまとめを行うことになりました。

◆平成十八年十一月七日(火)委員九名の出席により、第二回労働者派遣事業検討会議を開催しました。

議題は次のとおりで、アンケート調査結果では、回答のあった三五九事業所(調査対象事業所五六三、回収率六三・八%)のうち、一九六事業所(五四・六%)からシルバー連合が一般労働者派遣事業を実施した場合には、シルバー派遣事業を活用する機会があるとの回答がありました。

- 一 シルバー労働者派遣事業アンケート調査結果の報告及び検討
- 二 シルバー労働者派遣事業実施上の諸課題の検討
- 三 その他

◆平成十八年十二月十二日(火)委員十名の出席により、第二回労働者派遣事業検討会議を開催しました。

議題は次のとおりで、先行実施連合の事例発表は大変参考になりました。香シ連の中川事務局長さんに厚く御礼申しあげます。

- 一 先行実施連合の事例発表
演題「シルバー労働者派遣事業の背景・実施について」
(社)香川県シルバー人材センター連合会
事務局長 中川智司氏
- 二 シルバー労働者派遣事業実施上の諸課題

- の検討
- 三 その他

無料職業紹介事業担当者会議開催

平成十八年十一月二十九日(水)倉吉市において、無料職業紹介事業担当者会議を開催しました。各センターの職業紹介責任者から実施状況及び今後の取り組みを報告し、連合会仲村事務局長による無料職業紹介業務の実務の復習、労働者派遣事業検討会議の実施状況についての報告があった後、シルバー事業全般にわたって幅広い意見交換が行われました。

なお、当日は無料職業紹介事業未実施の法人センター事務局長さんにもご出席をいただいた中で、実施について早急な検討を要請しました。

第二回連合事務局長会議開催

平成十八年十二月二十二日(金)鳥取市において、平成十八年度第三回鳥取県シルバー人材センター連合の事務局長会議を開催しました。議題は次のとおりで、十二月十五日(金)、全シ協が都道府県連合の事務局長及び業務担当者を対象として開催した「平成十八年度シニアワークプログラム(S.P)研修」の受講報告を受けた後、平成十九年度のS.P事業の実施について協議しました。

S.P事業については、国において全体的見直しが行われ、平成十九事業年度から大きく様変わりすることになり、その対応について活発な議論が交わされました。

- 一 平成十八年度全シ協S.P事業研修の報告
- 二 平成十九年度S.P事業実施についての協議
- 三 その他

シルバー人材センター事業 普及啓発促進月間

全シ協では、毎年十月を「シルバー人材センター事業普及啓発促進月間」と定めて、シルバー人材センターの活動、高齢社会における意義等について、広く地域の人々や行政等の理解と認識を深めてもらうことにより、シルバー人材センターの一層の発展と拡充を図ることを目的として全国一斉に会員参加型の社会奉仕活動や市民との交流の輪を広げる運動を展開しています。

鳥取県シルバー人材センター連合会では、「シルバーの日」(第三週の土曜日)を定めて、テレビCM放映、啓発用ポスターの配布、米子市街でリーフレット等啓発用品の配布を行い、各活動拠点センターにおいても、イベント事業への企画、リーフレット、チラシ等の配布、公共施設等での清掃、除草、樹木の手入れ等の奉仕作業を行うなど、多様なPR活動を実施しました。

平成18年度シニアワークプログラム事業の実施状況

シニアワークプログラム事業は、(社)鳥取県シルバー人材センター連合会が主催する第1種講習・連合2種講習と各シルバー人材センターが主催する第2種講習があります。

平成18年度の第1種講習は技能講習12回、連合2種講習2回、介護講習を4回計画し、順次実施しています。

技能講習第1種

講習名	実施地区	講習日程	講習日数	申込者	受講者	修了者
パソコン(中級)	米子会場	06.08~06.16	7日	19名	19名	19名
パソコン(中級)	倉吉会場	06.27~07.05	7日	28名	20名	20名
接客サービス	鳥取会場	07.10~07.14	5日	18名	18名	15名
パソコン(中級)	境港会場	08.03~08.11	7日	22名	20名	20名
植栽管理	米子会場	09.06~09.14	7日	23名	20名	19名
左官・ブロック積	鳥取会場	09.21~09.29	6日	12名	11名	8名
塗装	倉吉会場	10.16~10.20	5日	15名	14名	11名
オフィスクリーニング	米子会場	10.23~10.27	5日	22名	18名	16名
パソコン(中級)	鳥取会場	11.28~12.06	7日	34名	20名	20名
パソコン(実務)	米子会場	12.05~12.13	5日	43名	23名	23名
接客サービス	米子会場	02.05~02.09	5日	20名		
パソコン(実務)	鳥取会場	02.07~02.16	7日	20名		

連合2種講習

講習名	実施地区	講習日程	講習日数	申込者	受講者	修了者
庭木管理	鳥取会場	06.19~06.23	5日	20名	20名	20名
竹炭製造	倉吉会場	11.13~11.22	7日	16名	15名	14名

介護講習第1種「2級課程」

講習名	実施地区	講習日程	講習日数	申込者	受講者	修了者
訪問介護員養成講座	米子会場	06.22~08.02	24日	20名	20名	19名
訪問介護員養成講座	倉吉会場	08.21~09.29	24日	16名	16名	16名
訪問介護員養成講座	鳥取会場	10.05~11.16	24日	38名	20名	20名
訪問介護員養成講座	境港会場	10.18~11.30	24日	23名	20名	18名



健康シリーズ 16

高齢者の骨折治療



山陰労災病院整形外科副部長

山崎 大輔

高齢者の骨折は転倒によるものが多く、また骨粗鬆症があると骨折を起こす確率は高くなります。年齢が進むと誰でもしだいに骨の量が減ってきます。骨粗鬆症は、「骨塩量の減少によって骨微細構造の破綻をきたし骨強度が低下し骨折に対するリスクが高まった全身性疾患」と定義され、分かりやすく言えばカルシウム不足から骨の密度が減少し、骨がスカス力になり折れやすくなる病気の事です。

骨粗鬆症について

現在、日本では約五〇〇万人もの骨粗鬆症の患者さんがいるとされています。性別にみると女性に多く罹病率は五〇歳代で二一%、六〇歳代で四八%、七〇歳代で六七%、八〇歳代ではなんと八四%もの高率です。骨粗鬆症で問題となるのは、骨が折れやすくなることであり、その結果寝たきりとなってしまつことも稀ではあ

りません。現在約九〇万人はいるといわれている寝たきりの方の原因の三番目が、骨粗鬆症による骨折によるものです。(一番は脳卒中、二番は老衰)

★骨粗鬆症の成因

高齢になつても骨は毎日少しずつ作られ、また、少しずつ壊されています。作られる骨の量より壊される骨の量が多くなると骨粗鬆症になります。実際には、様々な要因が重なり合つて退行期骨粗鬆症が発症すると考えられています。

一 性ホルモンの低下

女性では五〇才前後の閉経期から、男性では七〇才前後から性ホルモンが低下します。女性ホルモン、男性ホルモンとも骨の形成を促進し、また、骨の減少を抑制する作用があり、これらの性ホルモンの低下が骨粗鬆症の発症に関与していると考えられます。

二 カルシウム摂取不足

日本人は欧米人に比し牛乳や乳製品の摂取量が少なく、骨粗鬆症の成因として重要です。

三 ビタミンD不足

ビタミンDには腸からのカルシウムの吸収を良くし、また、腎臓から尿としてカルシウムが体外に失われるのを防止する働きがあります。日光照射不足などでビタミンDが不足します。

四 副甲状腺ホルモン、カルシトニンなど骨の代謝を調節するホルモンのアンバランス

五 運動不足

運動は骨を刺激し骨の形成を刺激します。年と共に運動量が低下すると骨粗鬆症の原因になります。また、骨粗鬆症による骨折のために運動量が低下すれば、悪循環に陥ります。

★骨粗鬆症の治療

一 食事療法

なんといつてもカルシウムを十分に摂取する必要があります。日本人の正常成人のカルシウム必要量は一日に六〇〇ミリグラムですが、骨粗鬆症の患者さんでは八〇〇〜一〇〇〇ミリグラム摂取する必要があります。しかし、一九九〇年の国民栄養調査では平均摂取量は五三七ミリグラムとカルシウム摂取不足の状態でした。また、高齢者ではさらに少なく四〇〇〜五〇〇ミリグラムしか摂取していないのが現状です。牛乳や乳製品のカルシウムは腸から吸収されやすく理想的な食品です。小魚、ヒジキなどもカルシウムの多い食品です。

二 運動療法

運動は骨量を増加させ、骨粗鬆症の予防治療に効果があります。しかし、高齢の骨粗鬆症患者さんでは骨折を誘発する可能性もあり十分な注意が必要です。

三 薬物療法

単独でまた二種類以上の薬物を併用し投与します。

一) カルシウム製剤

食事からのカルシウム摂取を補足するために投与される。

二) 活性型ビタミンD

副作用として高カルシウム血症が起こりうる。

三) ビスフォスフォネート

骨の破壊を抑制する薬物で欧米では以前から使用されていましたが、最近わが国でも使用できるようになりました。

四) その他

ビタミンK、カルシトニン、イプリフラボンなどが使用されています。

高齢者の骨折について

高齢者は立位からの転倒といった実に些細な外傷をきっかけに骨折します。老人の骨折の特徴はまず部位に偏りが見られることで、頻度的に多いのは脊椎圧迫骨折で加齢とともに著しい増加を示します。大腿骨頸部骨折は原則全例入院治療が必要となりますが、脊椎圧迫骨折で入院治療が必要とされるのは、その一部のみです。上肢の骨折、上腕骨頸部骨折や橈骨遠位端骨折は外来治療がほとんどです。上肢の骨折の全身状態におよぼす影響は大腿骨頸部骨折に比べて小さいのですが、利き手を受傷すると厄介です。以下にそれぞれの骨折の治療について述べていきます。

大腿骨頸部骨折(股関節の骨折)

転倒などにより受傷することがほとんどです。発症と同時に股関節部で疼痛が生じ、自力では体位変換は困難で歩行は不能となり、寝たきりになります。寝たきりとなると褥瘡ができたり、肺炎になったり、認知症となったりと種々の合併症を併発してきます。早期離床をはかるため骨折を早く診断し、できるだけ早く手術して臥床期間を短縮することが強調されています。早期離床のためには、手術が必須であり、骨折のタイプによって手術方法を選択します。経過が良ければ、手術をして一週間後までには歩行訓練が可能となります。骨折後四か月でどのくらいの歩行能力があるかが余命に影響するという報告もあり、しっかりとした治療とリハビリが必要です。

脊椎圧迫骨折(背骨の骨折)

尻餅をついたり、重いものを持ち上げた際に起こる腰痛は脊椎の圧迫骨折の疑いがあります。ひどい場合は身動きもできず寝たきりの状態が一〜二週間続きます。徐々に動けるようになりませんが約一か月は辛い思いをすることになります。治療は痛みに応じて安静臥床したり、コルセットをつけて動くこととなります。早期に無

理をすると背骨の変形が進みます。稀にこの変形により脊髄神経を圧迫して下肢にしびれや脱力が生じることがありますので痛みのある間の一〜二か月は無理をしないことが大切です。

橈骨遠位端骨折(手関節の骨折)

転倒して手のひらをつき、手関節に腫れや変形が生じます。治療は変形を矯正してギブス固定を行ないます。骨折の形態によっては、手術が必要となることもあります。手関節に変形が残ることもあり、動きは多少悪くなります。

以上簡単に述べましたが、下肢の骨折は移動能力が奪われるため手術を含む積極的な治療が上肢の骨折はそうでないため時には消極的とも見える保存的な治療が選択されます。高齢者は寝かせて治療してはならないといわれます。早期離床と早期社会復帰をはかり、認知症などの合併症を防ぐことが大切です。また高齢者の転倒の多くは、年を重ねることと運動不足により、身体全体の運動・感覚の働きが衰え、二本の脚でしっかり立って歩くことが困難な状態となっていることが主因と考えられます。日頃からしっかり身体を動かす生活習慣を身につけ、無理なく楽しい運動を続けることが、身体の機能の衰えを和らげ、転ばない、骨折しない、寝たきりにならないための身体づくりになります。

シルバー人材センターの紹介

(社)岩美町シルバー人材センター

事務局長 牧野 淳 正

東西十四・三km、南北十五・八kmの私たちの町岩美町は、平成の大合併に単独自立の道を選択しました。兵庫県に隣接し、北は日本海、南には中国山地が連なり、人口約一四、



〇〇〇人が暮らしています。世界自然遺産にもノミネートされ、岩が美しいと書く岩美町の地名のとおり、断崖絶壁と大小の島々、岬に囲まれた白砂の浜からなる駆馳山から陸上岬に至る浦富海岸をはじめ、奇習「ゆかむり」の風習が残る山陰最古一三〇〇年の歴史のある岩井温泉。また、山陰沖の日本海には漁獲量日本一の松葉がにをはじめ、一年を通して海産物にあふれています。海あり山ありの豊かな自然に贅沢に囲まれた町です。

当シルバー人材センターは、平成九年に小規模センターとして設立され、五年後の平成十四年に法人化されたのを経て、今年で創立十周年を迎えます。現在、約二百名の会員が在籍し、事務局は職員二名と嘱託職員一名の体制で運営しています。公共からの発注は観光業務に関わるものが多く、季節や天候に左右されやすいのが特徴であると言えます。近年、大手企業の経費削減による発注控え等により契約額の減少を余儀なくされましたが、就業開拓員及び



役員一丸となって一般からの受注拡大に努力して、その回復を図っているところです。

また、新たな取り組みとして、「剪定屑の堆肥化」の調査研究に着手いたしました。試行錯誤の状態ではありますが、できれば独自事業としてスタートさせたいと考えております。

団塊の世代がいよいよシルバー世代に仲間入りされる年を迎えます。会員の増員も予測されますが、併せて早急に受け皿づくりのための地固めが必要となります。また、会員一人一人の事業への参画意識を高めるとともに、事務職員の資質の向上と、より一層各関係機関との連携を強めてまいりたいと思っております。

三朝町シルバー人材センター

事務局長 前田 耕三

本町は、昭和二十八年に五つの村が一つになって誕生した、広大な面積を有する町で、平成の大合併では単独の道を選んでいる。この広大なそしてほとんどが山林である町に、六十四もの集落が点在していて、しかも町の中心地から扇状に道が分岐しているとても行政効率が悪い町である。山間部では過疎化が進み、町全体では高齢化が進んで独居の高齢者が増え続ける厳しい現状がある。

そんな中、平成十五年四月に三朝町シルバー人材センターを設立した。当初は二十八名



の会員で、行政の援助を受けながら手探り状態で運営していたが、同年度末から自主的に運営する状況を徐々に作り上げた。

センターの現状と課題

現在は会員数も五十名に増え、平成十八年四月から事務所を独立し、現在は受注件数及び受注額も大幅に伸びているが、女性会員が少ないので、業務の内容や依頼者の要望によっては応えられない場合が再三あり、入会促進を図っているものの成果が上がらない。

又、後継者不足で農業業務が年々増えてきていて、これが一時的に集中するので、今後対応し切れない場面が出るかもしれない。体育施設等公共施設の維持管理業務を初め、公衆トイレの掃除やトレー回収等々年間を通して就労している会員が半数はいる反面、季節



的には全く就労しない会員もいて、その対策に苦慮している。

総会・ボランティア活動後の懇親会や、一度の宿泊研修会を楽しみにし、町民みなさん特に高齢の発注者から重宝がられ、感謝の言葉を頂きながら就労に励んでおります。



会員の広場

極めて重要な地域班の ボランティア活動



(社)鳥取市シルバー
人材センター
高橋 正 晨

鳥取市シルバー人材センターに入会して七年になります。その間、商品管理、宿直業務等に就業、地域班は「浜坂」に所属、班長や世話人も務めさせて頂きました。今迄、総会、班長会、地域班会等で色々なことを勉強させて頂いたが、大変感謝しております。

第二の人生で特に重要なことは、社会や地域に貢献することだと思えます。要するにボランティア活動をいたしましよという事です。仕事さえ貰えばよいという様な狭い考えではなく、ボランティア活動をしているから仕事貰えて有難いという様な考えになることが大切だと思います。

シルバー人材センター全体としてのボランティア活動と地域班としてのボランティア活動が機能して、初めて、社会や地域に貢献することが出来るのです。そうすれば、社会や

地域がシルバー人材センターに仕事をくださる様になります。受注も増加し、会員の入会も増加することになるでしょう。この意味で地域班のボランティア活動は、ベースとなる極めて重要なものであり、どの程度、どこまで広げてやるべきかを、慎重に検討し、果敢に実行すべきであると思えます。活動を通じて、達成感や満足感が得られ、コミュニケーションもよくなり、活性化が得られます。此が、シルバーの醍醐味ではないでしょうか。

故里で生きがい発見…



(社)倉吉市シルバー
人材センター
中嶋 義 信

私は、長年勤めていた大手企業の造船所を定年になり、故里に永住を決めて帰ってきましたが、幸いにも、高齢者の就業拠点である「シルバー人材センター」にお世話になり働くことになりました。当時勤めていた職種は船舶塗装をしていましたので、その技能を生かしていくことができ、今では塗装のできる仕事に充実感に満ちて働いている時が、私の生きがいのような気がいたします。

ある医学者の本の中に、老人になると身体機能や単純な記憶は若い人には劣りますが、物事の全体像を総合的に把握したり、問題の核心を捉えたりする機能は活発になり、言語能力や洞察力はむしろ老年の方が、若い人より勝るとも言われています。また、智慧も高めていくこともできるそうです。

そして、未知の若者と違つところは、全て経験した様々のことが鮮明にインプットされたコンピュータのような存在が老人であり、色々なキイを押して正確な答えが得られるのが老人である。残された時間が多かろうと少なかろうと、やろうと決めたことをするには充分かも知れない。何かをしようという思いが、大切ではないのでしょうか。と、記述されていて、読み終えた時は、私も心新たな決意に駆られました。

高齢者こそが、価値ある存在と自負し、誇りと自信に満ちた行動をすべきと考えます。今後、体力と健康を願いつつ日々を感謝し、皆さんとの一期一会の出会いを大切にして、就業活動に励んでいきたいと思えます。



私のシルバー 人材センターでの生き甲斐



(社)智頭町シルバー
人材センター

国 政 信 男

私はシルバー人材センターに入ってもう四年の年月が流れて行きました。

シルバー人材センターでの「介護移送サービス車」の運転手としての「生き甲斐」は、お年寄りの人達と時代の流れのお話を聞くことです。

シルバー人材センターの「介護移送サービス車」業務について、少しお話ししたいと思います。

当センターには十名の運転手があります。平日は(月～金)運転手三人、土曜日二人、日曜日及び祭日一人で勤務、朝八時～十七時まで、各自が事務所と連絡を取りながら移送サービス車を運転しています。

独り暮らしのお年寄りは、車に乗ると目的地に着くまで色々と、過去の豊富な人生経験をお話され私も感動させられ、楽しみに聞かせていただいています。

また、お年寄りはこの移送サービス車がいっつも走ってほしいと…手を合わされます。

冬季期間は雪が降り大変な時期となりますが、ボランティア精神と交通ルールを守り安全にお年寄りの気持ちを大切に送迎し、喜んで戴ける「介護移送サービス車」になりたいものと頑張っています。

私の生き甲斐



(社)湯梨浜町シルバー
人材センター

松 浦 智恵子

振り願みる事二十数年前、丁度今の季節でした。薄墨色に染まった遠い山々を見つめながら、ふっと、このあくせくとした日々も、やがて訪れる老後を迎えたなら、浅き春には、こぶしの白さを探し、こぼれ陽を拾いながら裏山を散策し、大好きな読書にも時をやり、そう、旅もいいな。縁側で惜しみなく陽なたばっこに船をこぎ。こんな素敵なお時間がこの私に本当に訪れるのだろうか？等空想したものでした。あれから何度もの春を迎へ、気付けばあの日、あんなに憧れて瞑想した年齢真っ最中です。今私は、幾つかの縁のもとに羽合平野と記憶にある湯梨浜町に居すわっています。そしてあの若かりし頃に想いはせた

夢は、そのまま薄墨色に消し、一転し、多くの人との出会いを大切に、微力ながら社会への貢献を忘れない余生をと努めていたところ、好運にも最高で最適な湯梨浜町シルバーを介して『元氣村』と云う所で仕事をさせて頂いて居ります。この元氣村と申しますのは、色々な経験、経歴、考え方のある人々の来館によって情報交換して出会いによる視野も広げられ、身も心も弾んで明日への生き甲斐とつなげられるように清潔で健康的な高齢者へと応援させて頂く場所です。西村所長の下私もこの笑いある仲間の一員として責任ある接客の中に私自身果てしない生き甲斐を感じ頑張っています。不勉強で至らぬことの多い私ですが、どうか、皆様の御協力と御支援を心よりお願い致します。



講習会に参加して

塗装講習会に参加して



(倉吉会場)
北 栄 町

東 地 和 雄

定年を迎え、何か仕事を探さなければと考えており、ハローワークに行きました。高齢者の就職は、なかなか見つからず何度か足を運んでいるうちに、ハローワークの情報コーナーで、シルバー人材センターが高齢者向け塗装講習会を行っていることを知りました。

早速、応募したところ受講決定の通知があり、参加することになりました。講習会は、座学と実技となっております。座学はテキストにより塗装の基礎的なことを学び、実技では前半が木部の塗装、後半が鉄部の塗装となっていました。

講習会では、プロの職人さんより基礎的な手順を手取り足取りと、きめ細かな指導を受けることが出来ました。木部の塗装では、まず、組み立て式の本箱を作成し、その後塗装を行いました。私の場合は、作品の下塗りが良くなかったため、いまいちの出来栄え



でした。鉄部の塗装では、波トタンの塗装をしました。錆を落とし、下地作り、本塗りの順で何とか先生の指導もあり、うまく行きました。家に帰り、実際にやってみたくなりまして、腕試しのため十五年経過した自宅の錆ができた金網フェンスの塗装を行いました。家内は「素人にしてはまずまずの出来栄である。」と褒めてくれました。

植栽管理講習に参加して



(米子会場)
米 子 市

木 村 憲 彦

毎年、秋になると近所の庭先に庭師さんが、松の木や樹木の剪定をしているのを見かける。我が家にも五、六本の樹木があるが、手入れば脚立に乗って高いところは、高枝切りバサミで切り落とし、道路に面した低い木は電動刈込機で刈り揃えて終了である。

剪定が終わり、きれいに刈られた庭を見て、いつか自分で剪定が出来るようになれば楽しいだろうし、仕事にも役立つだろうと思っています。

塗装については、まったくの素人であったが、今回の塗装講習会では基礎から学ぶことが出来ましたし、自宅の金網フェンスの塗装まですることが出来て、大変よかったです。今後は、習得した塗装技術を生かし、シルバー人材センターなどでお役に立てれば良いなと思っています。受講期間中に講師・スタッフの皆さんには大変お世話になり、有難うございました。

そんなある日、知人から植栽管理の講習会があると聞き、剪定の技術や知識を習得しようとして受講を申し込みました。

受講生は、二十人で女性が五人おられ、全員がヤル気満々、講師は造園を営むプロの方から直々の指導ということで、さらにヤル気倍増。

一日目は座学、最初に剪定作業の服装、剪定鋏、剪定ノコ、刈込み鋏等の使い方と使用上の注意、使用後の手入れ方についての講義がありました。

続いて、松の剪定についてのお話があり、松の剪定は、春の芽摘みと夏の剪定があり、春の芽摘みについては鳥取県内でも、東部は



春の芽摘みはしないで夏の剪定のみ、中部は半々で、西部と出雲地方は春と夏の剪定は盛んに行われるとか、県内でもそれぞれに違いがあることを知り、受講生も感心した様子でした。

二日目、いよいよ松の剪定実技、前日、注文をしていた木鋏、剪定鋏も届き、ベルトに通して腰に付ければ格好だけは一人前、それぞれ見合つて大笑い。

脚立を組み、板を渡し、準備が出来、実技に入ると全員が目が講師の指先に注目、一言も聞きもらすまいと真剣な顔つき、「勢いのある芽を切り、上枝、下枝、交差する枝も切り、もみあげをキチンとやること、そして大

切な事は、松の将来の形を常に頭にイメージしながら剪定をすることです。」と指導をうけました。

一通りの指導を受けて実技へ、最初は質問しながら鋏の動きも鈍く聞こえていたが、いつの間にか鋏の動きも良くチヨキチヨキとこち良いリズムに変わるのがわかりました。

三日目も実技で前日の松の剪定の仕上げ、一日目より二日目と受講生の腕も上がり！？

「松の枝ぶり、もみ上げ、全体のバランスも良く、今回の受講生は筋が良い」とほめられ、全員が顔を見合わせ、拍手と歓声があがりました。

四日、五日目は雑木の剪定で松の剪定と同じ様に上から下へ行い、雑木の場合は、向こうの景色が少し見える位透しを開けることで風通しも良く、虫の付きが少ないと説明を受けました。

背の低い雑木は刈込鋏を使う時は、両方の腕で切らないで、片方を固定して切れば上手に切れると言われ、やって見ましたが、自然に両手になってしまい、やはり「基本が大事」だと思いました。

六日目は竹垣の作り方、四つ目垣と金閣寺垣の二種類をそれぞれ別れて作製、図面を見ながら寸法に合わせて竹を切り、互い違いに組んだり、全員が初めての竹垣作り、講師の指導の元、悪戦苦闘の末、シヨ口縄を結んで時間間際に終了しました。

最終七日目は、座学、講師からの総評、松樹木剪定のおさらい、質疑応答があり、長い様で短い七日間でした。

この講習で得た知識を發揮できる様に、今日より明日を目標に上達するよう努力し、今後の仕事にいかして行きたいと思えます。

ご指導ありがとうございました。

訪問介護員研修に参加して



(鳥取会場)

北栄町

岩木 佳恵子

初期の認知症になっている同居義母（九十才）の介護に明け暮れる毎日でしたが、永年勤務した施設職員として介護に対する自負は有ったものの、失明の危機に遭遇し、医師の「無理をしている」という言葉でがっくり！

自分が自分を追い込んでいた事に気が付いたので。

そんなある日、新聞でシルバー人材センター「介護講習の記事が目にとまり、もう一度「介護の基本」を基礎から学習してみようと強く決意し、応募いたしました。

講義の福祉概論では、「人は最期まで住み慣れた家で生活を続けたい」という願いを基本とし、「人間はみな同じでもみな違う」の言葉通り、常に「価値と個性」を重んじ、人間の尊厳を見失うことなく、この理念を実践していかねばと心に強く受けとめました。即ち「福祉の理念」や「倫理」を正しく理解して対応することを学んだ訳です。

介護実習では利用者の中で、日々係わって

おられる介護士さんのしなやかな言葉や対応の接し方を見たとき、利用者の気持ちを和らげ上手に誘導、ご案内される姿に感動を覚えました。

私も段々と実習や実技を深めていく中で、少しずつコミュニケーションもとれ、信頼関係も生まれ「あんたにしてほしい」「待ったけー」……と言って頂いたとき、介護というものは、技術や知識だけでは出来ないのだと自信と希望も沸き、充実した二日間の介護実習でした。

ホームヘルプ同行訪問では、私の家でも義母のところへヘルパーさんに来て頂いています関係上、義母の事を話題に出したり、地元の特産物の話をしてコミュニケーションをとりながら、指導ヘルパーさん指示のもと、家事援助を気持ち良くさせて頂きありがたかったです。

デイサービスでは、利用者が提供された自立支援の場所で、短い時間の中から集団活動を通じ、身体的にも精神的にも、要介護状態を悪化させる事のない様、一途に日々努力されておられる事が理解できた様に思いました。更に利用者を迎えるにあたって、事前にテーブルに花を飾ったり、部屋の環境を整えたり、いろいろスタッフの細やかな気配りが大変勉強になりました。

振り返ってみると、あっという間の二十一



日間でしたが、講習を受けた二十名の皆さんと共に欠席することなく無事終了する事が出来た事が何よりもうれしい事でした。介護講習を開催されました(社)鳥取県シルバー人材センター連合会の皆様、各専門分野の諸先生方に厚くお礼申し上げます。


今後は社会や地域、家庭介護に役立つ人材になるよう常に自分を研鑽し、信頼されるヘルパーを目指して微力ながら仕事ができたらと思っています。

有難うございました。


●鳥取県の最低賃金●


最低賃金は、最低賃金法に基づいて決定されたもので、使用者はこれより低い賃金で労働者を使用することは出来ません。

◎鳥取県内の事業所で働くすべての労働者とその使用者に適用される

	鳥取県最低賃金 (1時間 614円)	発効年月日 平成18年10月1日
---	-------------------------------------	-----------------------------------

◎鳥取県内の特定の産業で働く労働者とその使用者に適用される

	鳥取県電気機械器具、情報通信機械器具、電子部品 ・デバイス製造業最低賃金(1時間 714円)	発効年月日 平成18年12月20日
---	---	------------------------------------

	鳥取県各種商品小売業最低賃金 (1時間 685円)	発効年月日 平成18年12月20日
---	--	------------------------------------

※詳細については、鳥取労働局賃金室又は最寄りの労働基準監督署にお尋ねください。

鳥取労働局賃金室 電話(0857)29-1705
 米子労働基準監督署 電話(0859)34-2231

鳥取労働基準監督署 電話(0857)24-3211
 倉吉労働基準監督署 電話(0858)22-6274

※シルバー会員の配分金について

シルバー人材センターが受注する仕事の対価については、当該地域における類似の仕事の対価に比べて著しく低くならないように留意し、仕事の見積基準等は、地域の最低賃金や業界の一般的な基準を参考にすることが必要です。



公益法人制度改革の概要

民間の団体が自発的に行う公益を目的とする事業の実施を促進して、活力ある社会を実現するため、社団法人及び財団法人の設立の許可及びこれらに対する監督を主務官庁の裁量により行うこととしていた公益法人に関する制度を改め、公益社団法人及び公益財団法人としての認定及びこれらに対する監督を独立した委員会等の関与の下で内閣総理大臣又は都道府県知事が行う制度を創設する。

基本的な仕組み

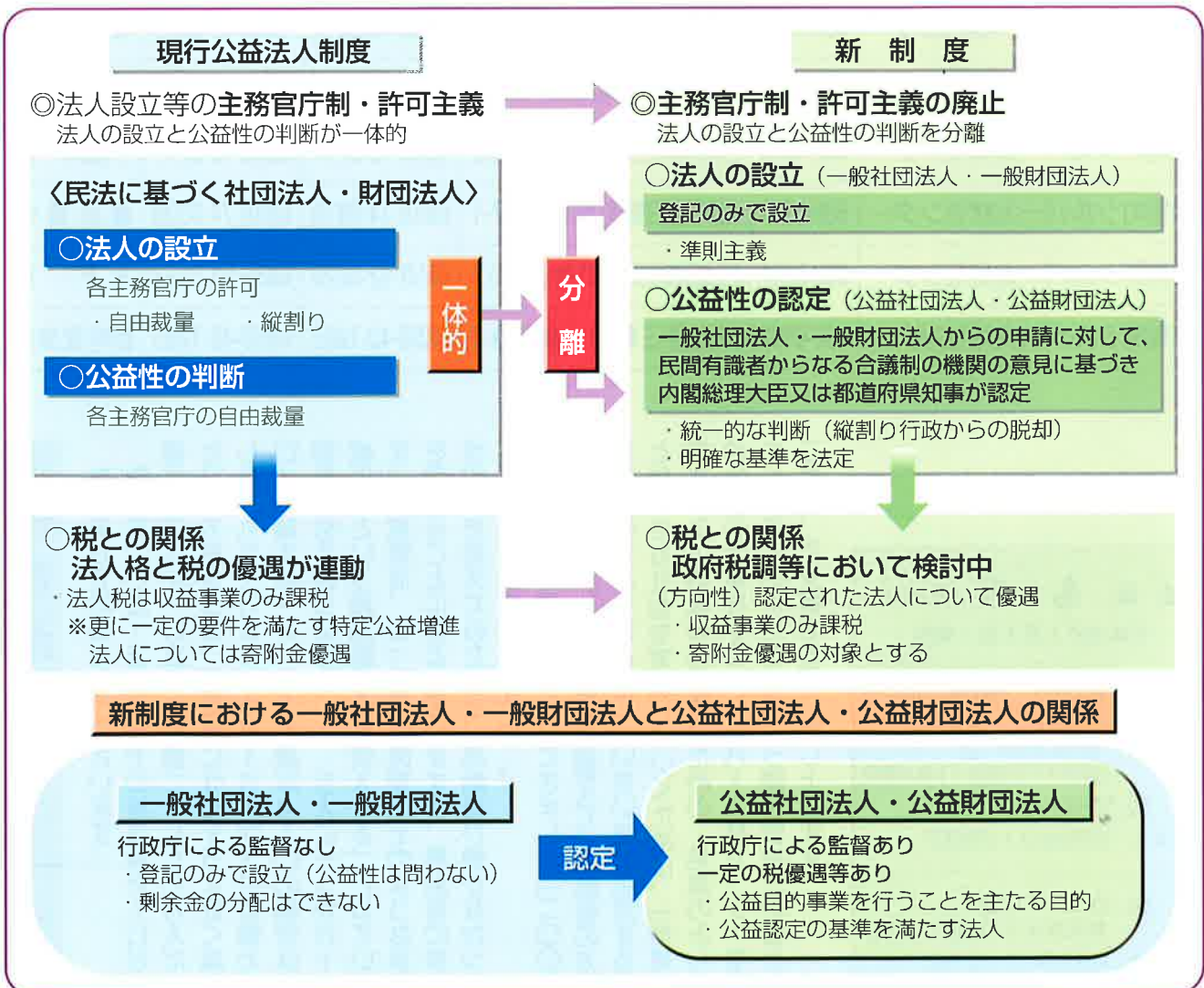
- ①公益法人の設立許可及び指導監督を主務官庁が行う民法に定める制度を改め、「法人格の取得」と「公益性の判断」を分離し、「登記」のみで法人が設立できる制度を創設する。
- ②内閣総理大臣又は都道府県知事が、民間有識者からなる委員会の意見に基づき、一般的な非営利法人について目的、事業等の公益性を認定するとともに、認定を受けた法人の監督を行う制度を創設する。

公益認定の基準

- ①公益目的事業を行うことを主たる目的とすること。
- ②必要な経理的基礎及び技術的な能力を有すること。
- ③公益目的事業に係る収入がその実施に要する適正費用を超えないこと。
- ④公益目的事業比率が50/100以上となると見込まれること。
- ⑤同一親族等が理事又は監事の1/3を超えないこと。
- ⑥認定取消し等の場合、残余財産を類似の事業を目的とする公益法人等に帰属させる旨の定款の定めがあること。

公益認定の申請等

- ①現行の公益法人は、法律の施行の日（公布の日（平成18年6月2日）から起算して2年6月を超えない範囲内において政令で定める日）から5年間の移行期間内に公益法人への認定の申請をする必要があります。
- ②法律の施行前及び新たな法人に移行するまでの間は、施行前と同様の指導監督基準に基づき、引き続き所管官庁による指導監督が行われます。
- ③新制度の詳細を定める政省令や公益法人がどのような税優遇を受けられるかなどについては今後の検討を待つ必要がありますが、平成19年度中には明らかになる予定です。



(社)鳥取県シルバー人材センター連合会正会員

(平成19年1月1日現在)

名 称	〒	所 在 地	電 話	F A X	代表者
(社)鳥取市シルバー人材センター	680-0823	鳥取市幸町73	0857-22-0050	0857-22-0051	木島敏行
(社)米子広域シルバー人材センター	683-0811	米子市錦町1-110	0859-32-2633	0859-32-5823	宇野治巳
(社)倉吉市シルバー人材センター	682-0816	倉吉市駄経寺町2-8-1	0858-22-0870	0858-23-6101	野島 完
(社)境港市シルバー人材センター	684-0034	境港市昭和町11-17	0859-47-4540	0859-47-4541	足立郁馬
(社)南部広域シルバー人材センター	683-0351	西伯郡南部町法勝寺170	0859-66-4011	0859-66-5330	田子 貢
(社)智頭町シルバー人材センター	689-1402	八頭郡智頭町智頭1795-1	0858-75-0170	0858-75-2366	石谷文一
(社)岩美町シルバー人材センター	681-0003	岩美郡岩美町浦富1041-1	0857-72-2511	0857-72-2512	谷口幹彦
(社)湯梨浜町シルバー人材センター	682-0712	東伯郡湯梨浜町上浅津123-2	0858-35-4130	0858-35-4130	足立春人
(社)琴浦町シルバー人材センター	689-2352	東伯郡琴浦町浦安152-3	0858-52-1001	0858-52-1004	足立慎夫
(社)北栄町シルバー人材センター	689-2103	東伯郡北栄町田井46-2	0858-36-6220	0858-36-6227	岸田忠良
(社)大山町シルバー人材センター	689-3111	西伯郡大山町赤坂764	0858-49-3012	0858-49-3013	林原彦一
八頭町シルバー人材センター	680-0463	八頭郡八頭町宮谷254-1	0858-72-0021	0858-72-2793	村田敏雄
江府町シルバー人材センター	689-4413	日野郡江府町洲河崎62	0859-75-3211	0859-75-3211	宇田川 潔
日野町シルバー人材センター	689-5131	日野郡日野町黒坂1247-1	0859-74-0870	0859-74-0338	瀬田寿幸
日南町シルバー人材センター	689-5211	日野郡日南町生山357	0859-82-0223	0859-82-0223	大下 勇
三朝町シルバー人材センター	682-0152	東伯郡三朝町本泉359-1	0858-43-1883	0858-43-1883	西村武津美

あ と が き

あけましておめでとございます。

昨年末、〇五〇五年までの将来推計人口が公表されました。〇五年に一億二、七七七万人だった日本の総人口は、五五年には四千万人近く減少し八、九九三万人に、十五〇六十四才の労働力人口は半減する一方、六十五歳以上人口の割合は四割を占めるようになり、二・五人に一人が六十五歳以上という超高齢社会に突入する、としています。鳥取県は、もっと早い時期にそのような状態を迎えることになると思いますが、高齢者の多い世の中を考えてみたととき、高齢者が働けなかつたらどうなりますでしょうか。...

さて、数年前より言われてきました「二〇〇七年」を迎えました。将来を見据えて、高齢者の方々が社会の支え手側として、いきいきと生活することができる社会を実現していくために、「地域に根ざした・地域の高齢者のための・地域みんなのための仕事をする」シルバー人材センターを大きく育てていただきますようお願い皆様方の暖かいご理解、ご支援をお願い申し上げます。

会報 鳥 取 第16号
平成19年1月1日 発行

発行：社団法人 鳥取県シルバー人材センター連合会

所在地：〒683-0812 鳥取県米子市角盤町1丁目76番地

電話：0859-37-2531

F A X：0859-37-2537

印刷：(有)ニシキ印刷
鳥取県米子市灘町3-150

電話：0859-32-2250